

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100071		
法人名	社会福祉法人 明峰会		
事業所名	グループホームオハナ		
所在地	大分県宇佐市大字四日市4452-1		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和5年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4491100071-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和5年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①当事業所は、ひびき山の高台に位置し四季折々の景色に恵まれ自然を感じる事ができます。木造平屋建てで、ホールには吹き抜けの窓の暖かな日差しを感じられる環境にあります。
- ②訪問看護の事業所と連携をとっているため健康管理、医療機関への連絡が迅速に図れます。
- ③学習療法の取り組みを実施、脳の活性化や認知症の進行緩和を目的とし利用者とのコミュニケーションツールとしても活用しています。
- ④コロナ禍の為、窓越しにて面会制限を行っていますがオンラインによるリモート面会でも対応しています。広報誌「オハナ日記」を発行し日常の様子を配布しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・職員が法人の理念の中から自分の目標を立て、年2回振り返り、自己評価をし、より良いケアを目指している。
- ・法人内の訪問看護ステーションから毎週看護師が訪問し、利用者の健康チェックを行っている。医療機関とも連携が取れ、家族の安心に繋がっている。
- ・コロナ禍にもかかわらず、対策を徹底しながら外出の支援を行っている。少し沈静化した時には、家族との外出も実現するなど本人本位の実践を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念の額を掲げている。職員の名札の裏に理念を明記し意識付けしている。支援の方法に迷う時は理念に沿う方向性を検討している。	法人の理念を朝礼時に唱和し、本人家族の意向を大切に実践している。また、年2回理念の中から自分の目標を立て自己評価をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で自粛により、地域の健康体操やオレンジカフェなどに出向くことは減ったので交流はほとんど図れていない。地域の清掃デーには参加し出来る範囲を一緒に取り組んでいる。	清掃デーには利用者とともに参加し、コロナ対策をしながら年末のおとしこしにも参加している。オハナ日記を地域に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の自粛により認知症サポーター養成講座の開催やアルツハイマーデーのリーフレット配布活動への参加が制限され、実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時には活動状況の報告や意見要望等話し合い、サービス向上に努めている。会議の開催が中止の場合には、活動内容の報告書やアンケート調査を実施し協力いただいている。	今年度は1回だけの開催であったが、それ以外は文書での開催となった。家族のアンケートから面会がガラス越しでは声が聞こえにくいとの要望で、ガラス戸を少し開けるなど工夫した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宇佐市介護保険課の担当者に質疑応答などやアドバイスを頂き、日頃から連絡を取っている。	管理者が変わり、書類の書き方などわからない点があれば窓口に行ったり電話やメールで連絡を取り合っている。研修などの連絡はメールで案内がくる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で身体拘束適正化委員会を開催し事例等を取り上げ周知を図り、身体拘束に及ばない支援を目指し取り組んでいる。	何が身体拘束に当たるのか正しく理解し、スピーチロックなどが見られた場合は、お互いに注意しあい、本人が何をしたいのかを大切に考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて高齢者虐待防止の勉強会や、委員会実施のアンケート調査に応じ結果を見直して、防止に努めている。		

事業者名:グループホームオハナ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいない。今後の受け入れでスムーズに対応できるよう学ぶ機会を持つようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を読み上げ説明を行い、疑問に対しても分かるように説明を行う。その他現状等の説明もしながら契約を進めていく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、行事等に参加して頂くことは難しいが、面会時や電話やアンケートを通して要望や意見を頂いている。	2か月に1度全家族にアンケートを送り、意見や要望を書いてもらっている。それをもとに運営推進会議で話し合う。面会や日記送付の希望があり、請求書とともに送付することになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、職員会議を行い、意見を出し合っ て情報を共有している。職員とのコミュニケーションを図ることによって意見や提案を聞いたり確認したりしている。	年2回個人面談を行っている。職員の家庭のことも考え、有給の希望など柔軟に対応している。	あたらしく入った職員が多く、職員同士のコミュニケーションや、知識向上のための研修を増やし、より良いケアにつながることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の水準や労働時間は、法の定める基準に従って実施している。また年2回、自己評価シートを用いて実施、個別に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修はコロナ禍の為、資料配布にて実施し参加している状況。外部研修の受講者は、事例等職員を巻き込み実施できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の環境変化に戸惑わないように一つ一つの動作に対して声掛けを行っている。正確な訴えができない方には、観察を続け行動パターンの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聴き、様々なケースの説明や情報を提供し、どの様にしてほしいか要望をうかがう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明をし、本人や家族が求めている対象の再確認を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ禍の暮らしを共に過ごす中で、一緒に洗濯物をたたんだり、シーツ交換の際やモップ掛けなど手伝ってもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、家族との外出を控えている状況だが、小さな変化でも伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人内の他施設に馴染みの方が居られる方に関しては交流可能な場を設けている。コロナ禍での外部の方との交流は控えている。	コロナ禍で思うように交流は出来ないが、法人内のケアハウスの人との交流は続けている。また、病院受診時には車で自宅や知人宅の近くを通るなど配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍により、テーブル席の間隔があり会話し辛い、縁側席で日向ぼっこする時や床に落とし物をしたら拾ってくれたりテーブル拭きの際に協力し合う場面がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にして必要に応じて連絡を取っている。その際にその後の様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話から得た情報を職員同士で共有して、本人の意向などを聞き取り検討し反映できるよう努めている。	一人ひとりの生活情報の把握に努め、日常の会話の中や表情から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート、本人や家族へ聞き取りを行い、日々の会話や対応時に話題にするなどし、生活情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化や様子観察を行い利用者ひとり一人の活動の活性化や意欲維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で情報交換を行い本人の様子観察と共に対応策を検討し、よりよく暮らせるための計画を作成している。	3か月に1度モニタリングを行い、状況に変化があれば、家族とも連絡を取り合いプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務中にその日の様子や体調等の気づきについて個別にiPadに入力し記録を残している。記録を確認し職員間で情報を共有しながら、状態に対して対応方法を会議等で検討し話し合いケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診対応の調整等、必要に応じて手段を変えたりと都度迅速な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な物品はなるべく地域の商店より購入し、お米は法人内の福祉農園「安心家族」より購入している。感染対策をとりお花見や外出行事に取り組み楽しめる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の変化に注意を払いながら、毎日バイタル測定や水分量や排泄をチェックし記録に残し健康を管理している中で、変化に対してかかりつけ医にすぐに連絡したり往診時に報告したり受診の予約など密に連携をとって指示を仰いでいる。	入居時に家族と話し合い、ほとんどの人が元々のかかりつけ医となっている。受診は職員が対応し、家族とも連絡を取り合っている。かかりつけ医の訪問診療も受けている人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と相談等連携をとり協働で対応、利用者の情報を共有し、早めに医療機関への連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーの作成、家族、主治医、医療連携室への連絡を行い、利用者の入退院がスムーズに行えるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に家族に説明を行っている。利用者が安心安楽に過ごせるよう、主治医や家族に施設での今後の方針支援の変更等を報告したり提案等も行い、支援に繋げている。	入居時に家族の意向を聞き、事業所でできることの説明をしている。看取りの経験もあり、医師や訪問看護師との連携を取りながら、本人家族の意向に沿うよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の緊急時対応マニュアルのファイルを作成している。誰でも直ぐ見れるようにファイルを事務所に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災について、法人で実施している年2回の総合避難訓練に参加。地域に協力を依頼できる連絡網がある。自然災害時における事業所の業務継続計画(BCP)を作成しファイルを事務所に設置している。非常食を備蓄している。	立地的に、火災以外の災害時にはなるべく移動することなく、業務継続計画に沿って行動するよう考えている。備蓄は法人内の厨房に準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導等、それぞれの個人に合った言葉かけで対応している。	一人ひとりを人生の先輩ととらえ、誇りやプライバシーを損ねない声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に学習療法に取り組んだり、好みの歌をうたったり好きなテレビを見たりと希望に添えるよう傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など気分を合わせられない様子の時は、時間をずらしたり本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝モーニングケアを一緒に行い、定期的に爪切りを行い、地域より出張カットに訪問してもらって身だしなみを整えている。衣類等の使用の訴えに応じ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で、食事について調理や配膳準備を一緒に行う事は難しいが、楽しみになる様献立やおやつメニューを伝えたり、味の感想を聞いたり、片付けやテーブル拭き等を手伝ってもらっている。	一緒に食事作りをすることは難しくなっているが、後片付けや洗い物は手伝ってもらっている。また、手作りのおやつはみんな楽しく作っている。食べたいものがあれば家族に協力をお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事量や水分量をIPADに入力し記録を残しチェックしている。不足気味の方には声掛けし、好みの物に変えたり一部介助で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず口腔ケアを声掛けし一緒に行っている。必要な方にはサポートしている。使用した物品は定期的に除菌消毒を行っている。		

事業者名:グループホームオハナ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員同士で利用者の排泄状況を共有し、声掛けてトイレ誘導を行っている。	リハパンを利用していた人が布パンツに変えることが出来た人がいる。夜間は安眠を妨げないようパットの大きさを工夫したり、ベット上でパットを交換したりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録を確認し、情報を共有している。毎朝、朝食後にヨーグルトを提供したり、自然排便を促すように体操や腹部マッサージ等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルを測定し、本人の状態にタイミングを合わせて行っている。拒否がある場合は、時間をずらしたり翌日に変えたりして対応している。冬至には湯船にゆずを浮かべたりしている。	2日に1回は入浴できるよう、毎日お風呂は用意して、季節に応じた入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤職員は利用者ひとり一人の睡眠パターンを把握し共有して対応し、日中の傾眠に対し昼夜逆転しないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の内服一覧表を作成し、服薬時の与薬担当者を決め、見守り等介助にあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなの洗濯物をたたんだり、ゴミ箱作りを手伝ってもらったり、壁飾り作りを一緒に取り組んだりしている。みんなで歌をうたったり、体操をしたり、スポーツ観戦したり、誕生日会でケーキを食べたり、行事に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で家族と食事に外出したり外泊は難しいが、感染予防をして、職員が付添い近所を散歩したり、車でドライブに出掛けたり、季節ごとの見学に外出したりしている。	季節に応じた外出だけでなく、人の少ない時間や曜日を考え、ドライブや散歩に出かけている。法人内の厨房に毎日食事を取りに出かけたり、洗濯を干しながら日向ぼっこを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で地域の商店などに出向く機会は持っていない。必要な物品等は、施設で準備したり家族に連絡し購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らやり取りは行えていないが、家族からの電話やオンラインによるリモート面会には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日定時に清掃を行い、清潔な日常保持に努めている。手作りの日めくりカレンダーや壁飾りや花などで季節を感じてもらったり、好みの音楽を流したり、換気や室温調整で居心地よく刺激がない様に環境に配慮している。	リビングにはゆったりとしたソファが置かれ、テレビを見たりユーチューブを見たりしている。壁面には利用者が書いた書道や季節の飾りが貼られている。南側に面した場所にも椅子を並べ、ゆったり日向ぼっこができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の行き来は自由にして頂いている。畳の間では横になったり、一人でソファでくつろぎ静かに過ごせたり、中庭が見える通路で日向ぼっこや景色を眺められるように椅子を並べて置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のタンスの上に家族との写真や表彰状などを飾っている。使い慣れた枕や毛布など使用している。本人のこだわりの物があれば可能な限り対応することを心掛けている。	地震の際にたんすが倒れないよう工夫したり、エアコンの下にベッドの頭が来ないようにするなど考えられた配置にしている。テレビやぬいぐるみなどなじみのものがあり、自分らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の照明器具に紐をつけて自分で引っ張り操作するような簡単な動作ができるよう工夫している。		